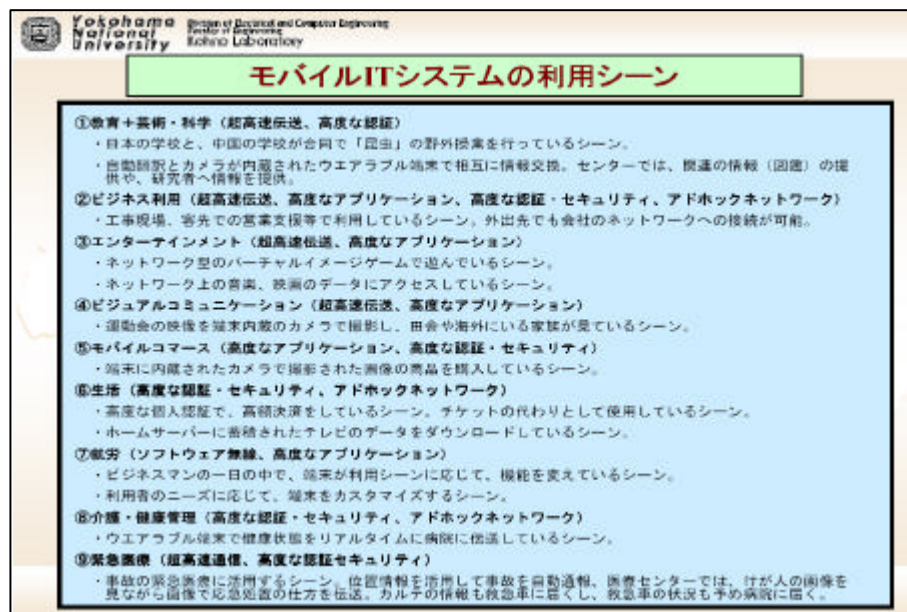


たいと思います。

図90：モバイルITシステムの利用シーン



ITに対する意識の内外格差

そういうモバイルITのシステムの利用シーンが色々な所で出てくる訳ですが、特にITの教育の中で、決して先端の研究者のみならず、例えばシニアの方々に対して、介護のため、あるいは医療のためといった場面においても大きな恩恵がある事は事実であります。社会経済活動においては、そういった関連をこういう絵にして試算していく事がモバイルIT協議会で進められはじめております。

ここは参考のためですが、これまでのモバイル環境で、産学官というそれぞれ、あるいは外国、国際機関をみた時の主なキーワードを挙げたものであります。

いつまでもこの話をするつもりはありません。さらっとオーバービューするだけですが、そういう中で技術的なコアになるものは、先ほど申し上げましたソフトウェア無線であったり、QoSの制御であったりというものだと思います。

そういった技術的な議論を超えて、次に、ITに関しての国内外の意識の格差という事で、特に産業界と我々アカデミアを区別して、1枚ずつのスライドを用意しているの

ですが、例えば欧米においては、産業界ではグローバルアライアンスであったり、この会ではもう言い尽くされているかもしれませんが、グローバリズムに基づく市場経済。

図91：産業界における国内外差

Yokohama National University
Faculty of Engineering
E-Info Laboratory

情報通信技術(IT)に関する国内外格差

産業界における国内外差

A. 欧米(主に米国)

1. 異業種連携、業界再編、国際アライアンス
2. 市場経済誘導型研究開発、新規コア技術とIPR
3. ベンチャーカンパニー化、優遇税制、個人投資家
4. ストックオプションとキャリアアップ、Ph.D.とMBA
5. 外国人雇用、雇用ボーダレス

B. 日本

1. 縦割り行政とお出入り企業、競合多社
2. 大量製造技術中心研究開発と特許の量産化
3. 大企業の系列解体と企業内カンパニー化
4. 年功序列脱皮と中途採用増加、エンジニア社長
5. 外国人における言語・生活様式障壁

13

このあたりは、私は非常につらく感じている部分もあります。と申しますのは、グローバリズムといっても、基本的には、現在、米国式の経済論理を無理やり押しつけられているわけで、先ほどの話にも出てまいりましたが、日本的な良さを放棄せざるを得ない方向になっていると思います。それは、デシジョンを早くしなくてはいけない。また、若い人たちに関していえば、アメリカ式の研究開発、あるいはベンチャービジネスの起こし方がトレンドィーでカッコ良いという盲目的な要素まで、最近でははびこっていると思います。決して批判的な事だけではなくて、自分自身がこういうベンチャー企業化を進めたりしている関係で、本当にわかった上で進めているのかどうか、サンホセでやっているのと同じ事をY R PやK I Tでやるという事なのだろうか。日本の良さ、あるいは日本の培ってきているものをより表に出していかないと、追いかけるばかりではないかという意識もあります。

私が兼業している企業で雇っている研究員はほとんど外国人で、そういう意味ではス